

明白之上、康元取帳無其難。子細載先段畢。仍同所被付于當庄也。次大宮神田友重貞廣廣等作田、大矢阿彌陀堂講田事就河之東西、相互雖有申旨、如繪圖者彼田地等者爲河之以北、遙相隔畢、而兩方之堺不分明之間、無左右難被是非。重被尋究之後可有左右矣。

一、大矢東山事。
右如雜掌申詞者、如寬治立券狀者、限東大矢東山云々。而覺心越彼堺、任自由掘切山、押領若干山之條無謂云々。如覺心申詞者、金津庄与北英田山堺者菩提山也。此外大矢山者全不知之云々者、如寬治立券狀者、東限大矢山云々。而就山之名字、覺心聊雖申子細、如繪圖者、論所山一所也。隨而雜掌者帶寬治立券狀之處、當保可進止山之條覺心不帶一紙狀之間、雜掌之所申旁有其謂。然早於彼山者、可爲當庄之進止焉。

一、塩海濱之事。
右如雜掌申詞者、塩海南堺者往古大道也。而弘安六年於六波羅掠給下知以來、覺心押領當社領濱、剩至布坂下

日角南端在家并小畠押領之條無謂云々。如覺心申詞者、布坂東西共守、往古之堺所知行也。且布坂西通、覺心所立申之堺、則往古大道也云々者、以大道爲堺兩方相論處、如繪圖者論所之中間道筋非一。而以何路号往古大道之由、不註付繪圖面之間、暗難被治定堺歟。然者重被究明之後、可有其沙汰矣。

正安二年三月廿三日

（北條宗時）
陸奥守平朝臣 在判
（北條宗時）
相模守平朝臣 在判

（本文中阿里河・大矢山・布坂等の地名今明らかならず。）

【溫故古文抄】

一三五

賀茂別雷社領加賀國金津庄雜掌法眼祐豪与同國北英田保地頭代覺心相論堺々事。
右任今年三月廿三日關東御下知、可致沙汰之狀如件。

正安二年七月十二日

（北條宗時）
右近將監平朝臣 在判
（大佛宗時）
前上野介平朝臣 在判

七月廿五日。伏見上皇、山城南禪寺に同寺領加賀郡小坂莊の替として播磨矢野別名・大塩莊等を寄進し給ふ。

【南禪寺文書】 山城

一三六

播磨國矢野別名、同國大塩庄、但馬國池寺庄等、爲小坂庄替、被寄附當寺、早可令領掌之旨、依院宣執達如件。

正安二年七月廿五日

如鏡上人御房

在判

（永仁七年三月五日の條参照。）

十二月廿二日。幕府、酒井利忠に鹿島郡酒井保の地頭職を安堵せしむ。

【永光寺文書】 鹿島郡

一三七

可令早左衛門尉藤原利忠領知能登國

酒井保地頭職事

右任亡祖父酒井十郎章長法師法名西願去文永六年九月十日讓狀、守先例可令領掌之狀、依仰下知如件。

正安二年十二月廿二日

（利忠裏判）

（北條宗時）
陸奥守平朝臣 在判
（北條宗時）
相模守平朝臣 在判

のなるべし。

正安四年

壬寅

乾元元年

改元

十一月廿一日 紀元一九六二

十一月廿二日。幕府、山城南禪寺に筑前宗像社の替として能美郡得橋郷及び石川郡笠間東保等を寄進す。

【南禪寺文書】 山城

一三八

加賀國得橋郷并笠間東保得橋介跡、備中國三成郷事、爲筑前國宗像社替、被進禪林寺殿之由可申之旨候、以此趣可令